

### A群・自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

本研究科は、計画委員会を主体とした自己点検評価を設立以来毎年実施しており、現状分析報告書を作成している。2005年度に作成した報告書の点検項目は以下の通りである。

「ミッションと教育目標」「財務戦略」「学生受け入れ」「職員組織と学生支援」「教員組織と研究教育活動」「カリキュラム管理」「EMBAプログラム」「博士課程プログラム」「社会貢献活動」「産学連携活動」「国際交流活動」

### A群・自己点検・評価の結果を基礎に、将来の発展に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

自己点検の結果に対する具体的対策案は、研究科長を議長とする計画委員会と教授会とによって行われている。計画委員会は、研究科長、教務主任3名及び教授会代表委員3名の計7名により構成され、毎週水曜日に定期的に開催され教授会に付議する議題の整理を行っている。研究科所属の全専任教員から構成される一般教授会は、月に1度、定期的に水曜日に開催され、研究科の管理運営にかかわるすべての事項が報告または審議され、必要に応じて臨時委員会が設置されて問題解決案が作成され、教授会での審議を経て実行されている。

なお、「研究科の使命及び目的・教育目標」の項目で述べたように本研究科の博士課程（5年一貫制）は2006年3月までの国際マネジメント専攻博士後期課程を再編成したものである。この一貫制博士課程への組織変更とそれに伴うさまざまな改革は、継続して行われている自己点検の成果でもある。また、前回の点検評価において指摘された課題である、1）専用の施設・設備の充実、2）事務組織の改革及び充実、3）研究科の予算等運営、学生部・就職部関連の事柄への対応、委員会等への参加を可能とする諸規則の改正、については、1）2003年より分散していた研究室、教室等の諸設備を5号館に集結させた、2）専門職大学院事務室が同時期より設置され、専門スタッフがおかれた、3）予算については実習演習費の使用細則の設置、プレイスメントセッションの実施とそれに伴う就職支援、各種学内・研究科内委員会への対応の明確化と年頭での役割の任命、これらに関する教授会決定などで対応している。今後一層の努力は必要であるが、十分に自己点検評価の趣旨をいかして、研究科の運営の改善を行っていると考えている。

**B群・自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するための措置の適切性**

上述の「自己点検・評価を恒常的に行うための制度システム」についての点検・評価項目で述べた点検項目に対して、各々現状分析を行ったうえで、課題と実行計画を策定している。これらの課題は教授会をはじめ、各種委員会で議論され実行に付される。また、自己点検のみならずこれらの報告を専門的かつより公平な見地から評価するための、外部点検組織として「専門職大学院国際マネジメント専攻修士課程評議委員会」を設けて、専門職大学院の教育機能、研究機能及び社会貢献機能について「全体的点検」ならびに「個別点検」を実施している。評議委員会は、海外大学院の学部長、日本企業の取締役などビジネス教育の専門的経験ならびに見識を有する委員30名で構成されている。

評議委員会では、自己点検報告に加えて、在学生に対するインタビューも含めて多角的な評価が行われた後、評議委員会による討論をへて国際マネジメント研究科に対する改善要望も含めた講評が行われる。